



評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0 使用評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観									
建物名称	(株)林自工 社屋・工場	階数	地上2階								
建設地	札幌市清田区美しが丘2条10丁目457-10, -13 ほか	構造	S造								
用途地域	準工業地域	平均居住人員	49 人								
		年間使用時間	2,100 時間/年(想定値)								
建物用途	工場	評価の段階	竣工段階評価								
竣工年	2018年7月 竣工	評価の実施日	2018年8月10日								
敷地面積	11,523 m ²	作成者	久保田								
建築面積	2,981 m ²	確認日	2018年8月10日								
延床面積	3,254 m ²	確認者									
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)									
<p>BEE = 0.6 </p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B: ★★ B-: ★ C: ★</p>		<p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★ 80%: ★★★ 100%: ★★ 100%超: ★</p> <p>標準計算</p> <table border="1"> <tr> <td>①参照値</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>②建築物の取組み</td> <td>117%</td> </tr> <tr> <td>③上記+②以外の</td> <td>117%</td> </tr> <tr> <td>④上記+</td> <td>117%</td> </tr> </table> <p>(kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したもので</p>		①参照値	100%	②建築物の取組み	117%	③上記+②以外の	117%	④上記+	117%
①参照値	100%										
②建築物の取組み	117%										
③上記+②以外の	117%										
④上記+	117%										
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)											
2-4 中項目の評価(バー チャート)											
<p>Q 環境品質</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア = 3.0</p> <p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア = 2.9</p> <p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 2.4</p> <p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 1.7</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア = 2.7</p> <p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 2.3</p>											
3 設計上の配慮事項											
<p>A 省エネルギー</p> <p>暖房にガスヒートポンプを採用した。又、照明設備はLEDを採用した。</p>		<p>B 省資源等</p> <p>節水タイプのトイレを採用した。</p>									
<p>C 緑化</p> <p>「札幌市緑の保全と創出に関する条例」の許可基準に基づき植栽を計画した。</p>		<p>D 雪処理</p> <p>出来る限り敷地内に駐車スペースを確保し、冬期間には堆雪スペースとして利用する。</p>									

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.3) (株)林自工 社屋・工場		■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.3)					
スコアシート	竣工段階	重点評価項目	環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分 評価点	住居・宿泊部分 評価点	全体 重み係数
配慮項目	評価点		重み係数	評価点			
Q 建築物の環境品質							2.7
Q1 室内環境				0.30			3.0
1 音環境				3.0	0.15		3.0
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40		
1.2 遮音				3.0	0.40		
1. 開口部遮音性能				3.0	0.60		
2 界壁遮音性能				3.0	0.40		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							
1.3 吸音				3.0	0.20		
2 溫熱環境				3.0	0.35		3.0
2.1 室温制御				3.0	0.50		
1 室温				3.0	0.38		
2 外皮性能	省エネ			3.0	0.25		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38		
2.2 湿度制御				3.0	0.20		
2.3 空調方式				3.0	0.30		
3 光・視環境				3.0	0.25		3.0
3.1 昼光利用				3.0	0.30		
1 昼光率				3.0	0.60		
2 方位別開口							
3 昼光利用設備	省エネ			3.0	0.40		
3.2 グレア対策				3.0	0.30		
1 昼光制御	省エネ			3.0	1.00		
2 映り込み対策							
3.3 照度				3.0	0.15		
3.4 照明制御				3.0	0.25		
4 空気質環境				3.0	0.25		3.0
4.1 発生源対策				3.0	0.50		
1 化学汚染物質				3.0	1.00		
4.2 換気				3.0	0.30		
1 換気量				3.0	0.33		
2 自然換気性能				3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33		
4.3 運用管理				3.0	0.20		
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50		
2 嘸煙の制御				3.0	0.50		

Q2 サービス性能				—	0.30	—	—	2.9
1 機能性				3.0	0.40			3.0
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40			
1 広さ・収納性				3.0	0.33			
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33			
3 バリアフリー計画				3.0	0.33			
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30			
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	0.33			
2 リフレッシュスペース				3.0	0.33			
3 内装計画				3.0	0.33			
1.3 維持管理				3.0	0.30			
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50			
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30			2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数				2.8	0.30			
1 車体材料の耐用年数				3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源			2.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源			3.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源			3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源			3.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔	省資源			3.0	0.20			
2.4 信頼性				3.0	0.20			
1 空調・換気設備				3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20			
3 電気設備				3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5 通信・情報設備				3.0	0.20			

3 対応性・更新性			3.0	0.30		-	3.0
3.1 空間のゆとり			3.0	0.30		-	
1 階高のゆとり			3.0	0.60		-	
2 空間の形状・自由さ			3.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40		-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出	緑化		3.0	0.30		-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	緑化		2.0	0.40		-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30		-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雪処理		3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	2.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	1.7
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネ					-	3.0
2 自然エネルギー利用	省エネ		3.0	0.13		-	3.0
3 設備システムの高効率化	省エネ	[BEI][BEIm] = 1.31	1.0	0.63		-	1.0
4 効率的運用			3.0	0.25		-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング	省エネ		3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制	省エネ		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価						-	
4.1 モニタリング	省エネ					-	
4.2 運用管理体制	省エネ					-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.7
1 水資源保護			3.0	0.20		-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-	
2 雜排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.5	0.60		-	2.5
2.1 材料使用量の削減	省資源		2.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源		3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源		1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源		3.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源		3.0	0.20		-	

3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70		-	
1 消火剤	省資源		-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源		3.0	0.50		-	
3 冷媒	省資源		3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.3
1 地球温暖化への配慮	省資源		1.6	0.33		-	1.6
2 地域環境への配慮			2.5	0.33		-	2.5
2.1 大気汚染防止	省資源		3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 悪化 対処		2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減	省資源	札幌市雨水流出抑制に関する指導要綱に基づき、対策量以上の流出抑制を行っている。	4.0	0.25		-	
2 污水処理負荷抑制			3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 対処		3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			2.8	0.33		-	2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1 騒音			3.0	0.33		-	
2 振動			3.0	0.33		-	
3 悪臭			3.0	0.33		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	
1 風害の抑制			3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制			2.0	-			
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			2.3	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			2.0	0.70		-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	

CASBEE札幌



重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.3)

1 建物概要

建物名称	(株)林自工 社屋・工場	BEE	0.6	BEEランク	B-
建物用途	工場,				
延床面積	3,254.1 m ²				

2 重点項目への取り組み



3. 重点項目のCASBEEスコア

A 省エネルギー (最高点 22.3 最低点 6.7)				合計	8.4点 / 22.3点
Q1 溫熱環境	スコア	0.4 / 0.7	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	0.0 / 0.0
Q1 光・視環境	スコア	1.0 / 1.6	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.5 / 2.5
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	2.5 / 12.5
			LR1 効率的運用	スコア	3.0 / 5.0
B 省資源等 (最高点 24.4 最低点 7.8)				合計	11.4点 / 24.4点
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.6 / 1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	4.5 / 9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.2 / 3.0	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.3 / 1.9
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	1.6 / 5.0
			LR3 地域環境への配慮	スコア	2.2 / 4.4
C 緑化 (最高点 19.5 最低点 3.9)				合計	9.0点 / 19.5点
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	3.6 / 6.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0 / 2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	3.2 / 8.0			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.2 / 3.0			
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)				合計	2.0点 / 3.0点
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.0 / 1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0 / 2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数

■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数